

第4回 諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議 会議録

- 日 時 平成27年11月13日（金）午前10時～12時
- 会 場 諏訪市役所 大会議室
- 出席者
 - <本部長>
金子市長
 - <副本部長>
平林副市長、小島教育長
 - <本部員>
関総務部長、河西企画部長、伊藤市民部長、飯塚経済部長、湯沢会計管理者、
宮下水道局長、高見教育次長、松崎議会事務局長
 - <幹事>
金原総務課長、木島企画調整課長、花岡財政課長、河西まちづくり・男女共同参画推進課長、
小松こども課長、前澤健康推進課長、大館商工課長、河西教育総務課長
 - <代理出席>
藤森建設課長
 - <事務局>
前田企画調整係長、河西企画調整係主査、牛山企画調整係主査、小松企画調整係主任
- 欠席者
土田健康福祉部長、竹内建設部長、矢花都市計画課長
- 会議結果
 - ① 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について承認された。
※修正等については事務局に一任。
- 会議概要
 - 1 開会
(河西企画部長)
 - ・本日の創生本部会議は諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について協議いただく。
 - ・本部長の金子市長よりご挨拶いただきたい。
 - 2 本部長あいさつ
(金子市長)

- ・今回の創生本部会議では、「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について協議、決定する。
- ・過日、第4回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催し、総合戦略（素案）に対して様々なご意見をいただいた。また、総合戦略策定部会において、具体的な施策やKPIの検討を進めてきた。
- ・総合戦略（案）をより磨き上げるため、多くの意見や提案をお願いしたい。
- ・なお、総合戦略（案）については、パブリックコメントを実施するとともに、諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議での意見聴取や、市議会への報告、意見聴取を行う。

3 協議事項

(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について

4 意見交換

（事務局）

※資料No.1に基づき説明

（本部長）

- ・まずは基本コンセプトについて、意見があれば伺いたい。

（本部員）

- ・基本コンセプトは「ものづくり」を基軸としているが、諏訪市は工業だけでなく観光のまちでもある。観光も柱となり得るのでは。また、医療資源や介護資源もバランスよく存在している。工業を前面に出すことで、諏訪市のポテンシャル、多様性が隠れてしまうのではないか。
- ・「しごと」が最も重要であるという前提で「ものづくり」を押しているが、人手が必要となる生産部門は海外に移っており、雇用を生み出す力はあまりない。むしろ、医療や介護分野の雇用創出が大きくなっている。「しごと」の分野を幅広く捉えるべきである。
- ・基本コンセプトと四つの柱が一致していない。基本コンセプトもより包括的な内容にしてはどうか。

（本部長）

- ・包括的に、全ての項目を正確に反映させるようなコンセプトでは、特徴のないキャッチフレーズになってしまう。
- ・四つの柱は御柱のように太さが異なる。施策の優先順位を示すため、メリハリをつけている。
- ・医療や介護、観光についても、「最先端に挑み続ける「ものづくり」」に包摂され得ると考えている。

（本部員）

- ・「ものづくり」と「ひとづくり」の関係性が明確になってきたと思う。
- ・九州のとある自治体からものづくり教育の視察依頼があったとき、「ものづくり」は「4K職場」であり、子どもたちをなぜ誘導するのかという発言があった。「ものづくり」からいわゆるブルーカラーのイメージが連想されることに驚いた。

- ・実際の「ものづくり」の現場は、クリエイターやデザイナー、エンジニアや研究者も活躍する職場。「ものづくり」に「最先端」という言葉が付いたことで、良い表現になったと思う。
- ・イメージとしての「東洋のスイス」は良いと思う。新産業都市建設促進法の時代につくられたイメージではあるが、工業と観光の両面が連想できるものであり、どこかで盛り込むことができれば。

(本部長)

- ・「ものづくり＝諏訪市」と広く認知されていると感じている。
- ・総合戦略は人口維持が大前提であり、そのために雇用が必要となる。観光は交流人口を増やすことができるが、定住人口の増加には直結しない。まずは工業振興と商業振興という展開になるのでは。
- ・企業訪問した際に工場見学させていただくと、「油まみれ」というイメージとは異なり、非常にきれいな場所である。総合戦略により、「油まみれ」という「ものづくり」のイメージを覆し、若い人たちにとって魅力ある職場であるとアピールすることを目指していきたい。

(副本部長)

- ・「ものづくり」がメイン、基盤ということで良いか。

(本部員)

- ・諏訪市の基幹産業は「ものづくり」という認識を持っている。

(本部員)

- ・「ものづくり」が諏訪市の産業基盤であり、これを支えるものは技術力と発想力である。これが「ひとづくり」につながる。
- ・技術力や発想力を育てる取組、人材育成の施策が必要と感じている。ものづくり教育では、「ものづくり」の範囲を広げるため、理科教育に力を入れてきたところである。

(本部長)

- ・「ものづくり」から連想されるものは百人百様である。労働力集約型製造業から開発型ものづくりまで、多岐にわたるイメージが「ものづくり」にはある。
- ・諏訪市には「ものづくり DNA」があり、これを将来につなげていく。「ものづくり」の一言では誤解を招くため、「最先端」という言葉を付けた。技術力や発想力の向上、クリエイターやデザイナーの誘致など、産業で光り輝くための原点がどこにあるのか表現したいと考えている。

(本部員)

- ・例えば農業を総合戦略で取り上げる必要があるかどうか。諏訪市の地方創生の中で、農業振興がどれだけの効果があるのか。
- ・重要でないわけではないが、地方創生で取り上げる意味があるかどうか。

(本部長)

- ・もう少し深く、地方創生との関連性を持つことができれば。
- ・数値目標や KPI についてはどうか。目標に向かっていることがわかる指標が望ましい。
- ・二之柱の数値目標「観光客入込数」であるが、数値目標の最初に位置付けることに違和感

があるが。

(事務局)

- ・二之柱の目標は、交流人口の増加もあるが、メインは社会減の抑制であるため、「社会増減」をトップに位置付けるよう、数値目標の順番を入れ替えたい。

(本部長)

- ・三之柱の数値目標で、例えば「保育に対する市民満足度」は考えられないか。

(幹事)

- ・「自然増減数」のほか、教育関係の指標を位置付けるということで、「学校教育に対する市民満足度」とした。
- ・KPIには保育関係の指標を設定している。市民満足度調査では、子育て全般に対する市民満足度はあるが、保育に限っての市民満足度はない。

(本部員)

- ・住宅・土地統計調査結果、例えば「持ち家率」や「住宅戸数」について、二之柱の数値目標にできるのでは。

(本部長)

- ・どの統計数字がどのように変化すれば目標達成できるのか、説明できれば説得力を持つことができる。

(本部員)

- ・例えば持ち家率が上がれば、定住が進んでいると言える。社会増の指標になるのでは。

(本部員)

- ・工業関係の指標は現状維持が精一杯の状況。製造業の従業者数や事業所数を増やすことは難しい。介護事業所や観光関連であれば、従業者数が増える要素があるのでは。
- ・二之柱について、住民意識調査結果に基づく施策をさらに盛り込んだ方が良い。例えばハード面、道路環境の改善は住民意識調査でも指摘されている。
- ・ふるさと寄附金件数をKPIとしているが、この制度がいつまで続くかどうか。

(事務局)

- ・ハード面については、四之柱での取組に位置付けるなど、配慮している。
- ・ふるさと寄附金は、今後どうなるか不透明な部分はあるが、市の大きなアピールとなるツールである。今年度もお礼の品の拡充により、大幅に件数、金額が伸びている。制度が続く限りは最大限活用したい。

(本部員)

- ・道路整備については市民満足度調査でも満足度が低い分野である。地元要望など、可能な限り対応を進めている状況。

(本部員)

- ・東京オリンピックボート競技の合宿誘致について、諏訪湖周3市町だけでなく諏訪圏域で取り組むべき課題ではないか。

(本部長)

- ・まずは3市町で連携して取り組み、決定した段階で諏訪圏域として取り組むこととなっていたが、指摘のとおりであると思う。

(副本部長)

- ・小中学校における「ものづくり教育」は、諏訪市全体の中での取組のごく一部に過ぎない。教育界だけでなく、産業界、行政と連携して取り組むべき課題である。
- ・常に世界のニーズを汲み取り、最先端の技術を磨き続けることが、諏訪市の「ものづくり」である。これが「相手意識に立つものづくり科」にもつながる。
- ・諏訪市の子どもたちが将来戻ってくる道筋となる「プラットフォーム」をつくるため、小中学校と高校、大学との連携を進めたい。そのためにも、産業界との連携が求められる。
- ・三之柱における KPI、「国際理解教育年間授業時間数」について、目標値をもう一度精査してほしい。
- ・計画づくりには想像力やイメージ力、夢が必要となる。コンセプトもはっきりしてきた。「ものづくり」を学ぶことは、地域の誇り、アイデンティティを育てることにつながる。子どもたちが成長したとき、子どもたちの中に形成されるものは、単に仕事としての製造業だけではないと思う。

(本部長)

- ・「くるみん」認定や「社員子育て応援宣言！」登録について、商工課として支援する。出産・子育てにより仕事を辞めざるを得ない社会構造にある。退職せずに復職ができる構造へと転換しなければならない。
- ・企業訪問の際、人材育成をしても出産を機として退職してしまうという話を聞いている。諏訪市としてどのようなサポートができるのか検討が必要である。
- ・事業所内保育所の支援ができれば、子育てをしながら仕事をすることも可能となり、育児休暇期間を短くするという選択もできる。

(幹事)

- ・事業所内保育所は諏訪市内で2か所。1か所は準認可保育所としてステップアップする見込みである。
- ・こども課としても、民間などが実施する地域型保育事業を支援する。子育てをしている人にとって働きやすい事業所が増えれば、雇用の創出にもつながる。

(幹事)

- ・現状では出産を機に退職してしまう女性が多い。退職した女性の再就職支援は必要な取組。
- ・再就職先はパートなどで、これまでのキャリアを生かすことができない。子育てのため、自分の意志で退職したとしても、子育てがひと段落したところで再び仕事に戻りたいと思っている人は多数存在している。

(本部長)

- ・住民意識調査では、子どもが遊べる公園が少ないという意見が多かった。児童遊園の点検・整備についての記載はあるが、これだけで市民満足度が向上するのか。
- ・道路整備や公園整備について、KPIを新たに設定する必要はないと思うが、もう少し前向きな取組が必要では。
- ・市内に幼稚園がないという意見も多かった。都市部からの移住者にとって、幼稚園がないということは障壁となる。

(幹事)

- ・公立幼稚園は難しい。保育士資格とは別に幼稚園教諭免許が必要となる。また、幼稚園では未満児を受け入れることができない。現在ではむしろ、幼稚園が認定子ども園に移行している。

(本部員)

- ・総合戦略は「金子戦略」、諏訪市としてどこに力点を置き、予算を盛り込むのか、金子市長の意向を具体化するものとなる。四つの柱の太さの違いなど、施策の優先順位を勘案しながら具体的な事業を検討していきたい。

(本部員)

- ・総合戦略の最終目的は、諏訪市に住む人に幸せを感じてもらうことでもある。「魅力的なしごと」を通じて自己実現ができるまち、収入だけでなく職業、キャリアデザインを通じて幸せを得ることができるまちであることも盛り込むべきではないか。

(本部員)

- ・「ものづくり」や「ひとづくり」が最終的に「まちづくり」につながる。基本コンセプトに「まちづくり」という言葉を入れてはどうか。
- ・「東洋のスイス」という表現には、自然、観光、健康の要素が含まれる。基本コンセプトの中で触れてほしい。
- ・諏訪市ではなく「SUWA」という表現は、広域連携を意識させることができ、良いと思う。

(幹事)

- ・「ものづくり」で「ひとづくり」という表現だが、まち・ひと・しごとはフラットな関係であると思う。「ものづくり」と「ひとづくり」はどうか。

(本部長)

- ・様々な意見をいただきありがたい。
- ・意見の反映、修正については事務局に一任とさせていただきたい。総合戦略（案）について了承をいただきたいが、よろしいか。
～異議なしの声～
- ・異議なしのため、「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」、承認いただいた。

6 その他

(河西企画部長)

- ・企画調整課からの連絡事項あればお願いしたい。

(牛山企画調整係主査)

- ・総合戦略（案）について、11月18日よりパブリックコメントを実施する。また、まち・ひと・しごと創生有識者会議での意見聴取、市議会での意見聴取を経て、総合戦略（最終案）を策定する。
- ・総合戦略（最終案）について、12月に総合戦略策定部会、まち・ひと・しごと創生有識者会議を経て、まち・ひと・しごと創生本部にて決定したい。

7 閉会

(平林副市長)

- ・活発な議論をいただきありがたい。
- ・数値目標と KPI について、設定基準などをもう一度整理したい。